

『看護教員のための学校経営と管理』

看護教員の資質を高め、
看護学生の成長に影響を
与える心強い味方

著者：網野寛子／遠藤由美子／齋藤茂子／林 慶子／松原定雄

定価：2,940 円(本体 2,800 円＋税 5%) 発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



2008年4月、本書のタイトルに携わる職位になった。本書は看護教員に求められる「学校経営と管理」についてシステムチックにまとめられており、管理者の初学者となった私には心強いテキストである。3年前からは実習調整者(教務主任補佐)を担当していたが、その役割を明らかにするために、医中誌 Web で検索をしたものの、先行研究が少なかったことを記憶している。しかし、ヒットした先行研究を参考に、当校での役割についてまとめたことを思い出した。

●看護教育と成果主義はなじまない

さて、昨年(2009年)の春、私の職位に関する仕事は目標管理の評価面接をすることから始まった。考課者を体験してみて、「看護管理過程と目標管理」について学びたいと考えていた頃、県看護協会主催の認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程の科目選択を聴講できる機会を得た。そこでは経営管理論の変遷のなかで現在主流の動機づけ理論の説明を聞き、紹介図書を読むことで発見もあり学ぶことが多くあった。その結果、看護学校における人事管理についても同様であろうと思いつつ、「看護教育と成果主義」については、著者と同様、なじまないのではないかと考えた。

2009(平成21)年改正のカリキュラムでは、教員の資質向上を図ることの課題の文言が明記され

た。では、その指標になるものは何かと考えると、本書に示されている「専任教員のキャリア別達成目標」こそが、それであろうと思われる。看護教員に必要とされる「看護能力」「教育能力」「研究能力」を3つに規定しており、その能力の段階別能力達成目標が具現化されている。そのことで教員は何をめざすのか明確になっているのでわかりやすい。そして、看護教員の資質が高まることで、看護学生の成長にさらに大きな影響を与えるのではないだろうか。

●カリキュラム編成の普遍的な考え方を記載

また、昨年は、改正カリキュラムの申請準備に直面した時期でもあった。カリキュラム編成に向けての年間計画立案のもと、教務会で自校のカリキュラムを評価しつつ、カリキュラムデザインの検討を進めてきた。カリキュラムデザインに求められることは、学校の内外の環境を見据えつつ、創造的知性を持って柔軟にカリキュラム編成にあたることだろうと振り返っている。しかし、カリキュラム編成を進めるにあたって普遍的なことがあると思う。それは、本書に示されている「カリキュラム編成」の考え方である。

まもなく、4月、改正カリキュラムをスタートさせる時期を迎える。さらに、本書は心強い味方となるであろう。